

加茂市議会 産業建設常任委員会視察報告

■日時：令和4年10月17日（月）～10月19日（水）

■視察者：産業建設常任委員会・委員長：森山一理

・副委員長：樋口浩二・森友和・滝沢茂秋・安武秀敏

・同行：農林土木係長、雙田勝也、

・随員：議会事務局次長、坂井恵里

■視察先：①神奈川県松田町 ②静岡県伊豆市 ③静岡県三島市

1. 神奈川県松田町 人口10,552人、総面積38km²

『薪ボイラーの運用整備について』『NPO 法人 傍（ろく）薪加工場視察→松田町健康福祉センター入浴施設『健楽の湯』視察』

【概要】松田町は神奈川県の西部に位置し総面積が37.75km²のうち94%が山間部、76%を森林が占める自然環境豊かな町。第6次総合計画において、松田町版SDGs（目指すゴール）を掲げ、その達成に向けたまちづくりを推進している。令和2年3月に「松田町再生エネルギーの利用等の促進に関する条例」を策定し、町民は地域に由来する再生可能エネルギーを持続可能な方法により享受する権利（地域エネルギー享受権）を有することを明文化した。

【背景】

- ① 平成29年度…民間団体等が松田町内を対象として産学連携による研究活動を開始。寄（やどりき）地域において、森林保全、間伐材等の有効利用、地域活性化等の観点から、地域の方々が木質バイオマス資源の活用を強く望んでいることが明らかとなった。
- ② 平成30年度…木質バイオマスエネルギー策定事業（FS調査）を実施。
⇒町内には木質バイオマスとして活用可能な森林資源が豊富にある。⇒具体的かつ持続可能な事業モデルの構築が必要。
- ③ 令和元年度…町の第6次総合計画において重点的な取り組みとして位置づけ、事業化へ向けた取り組みを推進。
- ④ 令和元年…台風19号の影響で寄（やどりき）地域が孤立したのがきっかけとなり⇒エネルギーの地産地消⇒木質バイオマスの利用促進により、森林環境を保全。『地域内でエネルギーを確保し、安心・安全を実現』

【薪ボイラーの導入】

- ① 令和2年度…令和3年2月に松田町健康福祉センター温浴施設「健楽の湯」に薪ボイラー（100kw）を1台設置した。※環境省所管の「二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金を活用」⇒森林の保全、産業の創出、エネルギー費用の流出削減等⇒二酸化炭素排出量削減。

【薪の供給体制の整備】

- ① 尙（ろく）…平成 30 年頃、寄地区で活動開始…薪製造を行うにあたり NPO 法人の認可を令和 3 年 8 月 3 日に取得。…構成員は 14 名。
- ② 必要資材等購入費の 2 分の 1 補助…補助金を活用し薪割機を購入。
- ③ 民間施設の一部を無償で借用し、尙へ貸与…薪割場、薪の保管等に使用。
- ④ 松田町内に事業所を構える民間企業からの提案「支障木を木質バイオマス事業に使用できないか」⇒従来は有料廃棄であったが⇒有価物として尙へ売却。
- ⑤ 民間企業・NPO 法人尙・松田町の 3 者で覚書締結。
- ⑥ 川上「燃料用材の供給」地域住民や有志⇒川中「燃料製造」NPO 法人尙⇒川下「エネルギー利用」健康福祉センター（指定管理：社会福祉協議会）

【今後の展望】

- ① 燃料用材供給元の拡大のために必要なこと⇒
 - ・受け入れ時等の適正価格の設定⇒切り出しや持ち込みなど様々なケースの対応。
 - ・地域住民からの受け入れ方法の確立。（材積勘定方法、樹種による差など）
 - ・その他、民間事業者との取引等の検討。（現在は町内のパン屋さんと契約）
- ② エネルギー利用先の拡大に必要なこと
 - ・販売適正価格の設定および販売方法。
 - ・エネルギー利用先への周知。
- ③ 木質バイオマスのエネルギー利用を通じた地域の資源や人材、個々の取り組みをつなぎ合わせ、循環する仕組みづくり、地域活性化へ。
 - ・観光産業⇒薪づくり×観光等の取り組み（視察の受け入れ・薪割イベント・炭焼き等）
 - ・燃料用材の収集・利用（剪定木・支障木のほか林地残材やナラ枯れ木の活用）
 - ・ゴルフ場や農業施設等、薪需要先の拡大、キャンプ場や薪ストーブ用の牧野販売。
 - ・木質バイオマスエネルギー利用における周辺市町村との連携。

【所感】SDGsに基づき化石燃料から資源再生エネルギーを活用しての、取り組みはこれから広がりを見せていくことが期待される。

2、静岡県伊豆市 人口 29,077 人 面積 363.97k m²

【温泉と自然環境を主軸とした観光振興について】

【概要】伊豆半島の中央部に位置し、豊かな自然環境に恵まれている。南側は天城山系の山並みに囲まれ、西側では青く澄んだ駿河湾に面している。中央には天城山から発する狩野川が流れ、北部はその沖積層により形成された田方平

野となって開けている。高低差も日本一深い湾・駿河湾の海底—2500mから天城山の山頂の標高 1407mまでと幅広く、海の底から山の上までの間に豊かな生態系がはぐくまれている。

伊豆市は、平成 16 年 4 月 1 日に修善寺町・土肥町・天城湯ヶ島町・中伊豆町が合併して誕生した。合併時は人口 37,869 人であった。伊豆市の観光協会は旧町単位で 4 支部を構成している。伊豆市からの補助金は令和 4 年度で 53,399 千円。伊豆市には各 4 地区において温泉地がある。昭和 63 年年間観光客数が 980 万人。令和に入って 300 万人に減った。

伊豆市全体としての観光振興は、「伊豆市・観光協会・JA・商工会」の 4 団体で DMO (Destination Management Organization) を組織し一般社団法人 伊豆市産業振興協議会として活動している。令和 4 年度は地域の高付加価値地域計画書（宿泊施設の修繕・イベント等）を環境庁に申請し 34 億円の約 2 分の 1 が交付された。使用目的としては、主に施設の改修などハード事業に使われる。

今後としては、市内の 4 団体（観光協会支部）の有償ガイド、若い人を中心に育成していきたい。

【観光事業について】

① 「環駿河湾（かんするがわん）交流活性協議会」

駿河湾フェリーの利用促進を目的に、フェリーからの海越しの富士山を活かした観光誘致事業を実施。協議会に対しては 2,400 千円の負担金。駿河湾フェリーに対しては、運航負担金として 27,100 千円、派遣職員の負担金として 1,100 千円を支出している。

② 「駿豆線沿線地域活性化協議会」

伊豆箱根鉄道駿豆線の沿線地域である三島市・函南町・伊豆の国市・伊豆市と各観光協会、伊豆箱根鉄道で組織。連携、協力体制を確立し、地域の活性化と防災体制の強化を図る。メインイベントはウォーキング。各市町にウォーキングコースが設定され、市職員は誘導及び警備のため出役。

③ 「美しい伊豆創造センター（美伊豆）」

伊豆半島 7 市 6 町が「伊豆を 1 つに」をテーマに、平成 27 年に設立された組織。令和 4 年度から伊豆半島ジオパーク推進協議会と統合。令和 4 年度の伊豆市負担金は 7,890 千円。職員を 1 名を派遣中。国内外の観光プロモーション事業に注力。

④ 「海外プロモーション」

インパウンド推進事業は市の観光主要事業として位置づけ。伊豆市インパウンド推進プロジェクトチームは平成 22 年に市・宿泊施設・観光施設・交通事業者等で組織。主に外国人観光客の誘客、受け入れ。台湾やタイなど海外でのプロモーションの実施。美しい伊豆創造センターや東部地域コンベンションビューローなど広域で連携して、台湾などの国際観光展への出展やブロガーの招聘。

⑤ 「伊豆文学まつり」

井上靖、川端康成、夏目漱石など多くの文人墨客に愛され、小説の舞台になった伊豆市の魅力を発信し、文学を通じた誘客を図る。例年1月下旬～3月上旬に実施。

【所感】歌手石川さゆりのヒット曲、「天城越え」で一躍全国的に有名になったところ。伊豆市の方から「浄蓮の滝」にご案内いただいた。…この曲のヒットで全国から観光客が訪れているという。

3. 静岡県三島市 人口 107,923 人 面積 62.02k m² 文教住宅都市

- ① 「三島スカイウォーク」民間経営「日本最長 400mの歩行者専用吊り橋」年中無休で 9:00～17:00 まで通行料は大人 1,100 円、中高校生 500 円、小学生 200 円。民間が設立して年間 200 万人が訪れる。トイレは 2 億円かけて建設。
- ② 「三島市立公園楽寿園」JR 東海道線三島駅のすぐ南に位置する広さ約 75,474 m²の市立公園。明治維新で活躍された小松宮彰仁親王が明治 23 年に別邸として造営されたのが始まり。昭和 27 年 7 月 15 日から市立公園として三島市が管理運営している。園内では、約 1 万年前の富士山の噴火の際に流れ出た溶岩（三島溶岩流）の上に実生した樹木や、野鳥を観察することができる。このほかレッサーパンダ、アルパカ、カピパラ、ポニーなどがいる動物広場、乗り物広場、郷土資料館、県・市指定の文化財「楽寿館」、お休みどころの「桜」と「紅葉」などがある。「楽寿館」は、京間風の高床式数寄屋造りの建物で、昭和 49 年 11 月 20 日に三島市の文化財として指定される。館内にある野口幽谷、滝和亭など低湿技芸員（現在の人間国宝にあたる）6 人を含む明示を代表する日本画家による装飾絵画は昭和 55 年 11 月 28 日静岡県の文化財に指定されている。

視察日の 10 月 19 日には、第 70 回の「菊まつり」（10 月 29 日～11 月 30 日）が開催されるに伴い準備が行われていた。今回のテーマは「鶴岡八幡宮」菊まつりの菊の育生をはじめ、鶴岡八幡宮の建造物の制作は専門業者を入れずに全て楽寿園の職員による手作りによるもの。園内の土木整備、庭の手入れなどは正規職員 8 人を含む 24 名のスタッフで管理されている。公園の 1 年間の予算は 2 億 7 千万円。入園料は大人 300 円、高校生・大学生・専門学生は学生証提示にて無料。市内内の保育園・小学校の遠足に利用されている。

【所感】三島駅前に 7 万 m²の市立公園を維持できたものだと感心した。市民の憩いの場所となっている。